

### 3 . THE JULES BAND / Little Things

(from GERMANY)



- 1.Little Things/2.Good Times/
- 3.Don't grow Up It's A trap/4.Dancin' Would Be Fine/
- 5.Rollercoaster/6.Steady Nerves/7.Knock On Wood/
- 8.Keep In Mind/9.Hold On Tight/10.Dear Disease

21世紀の現在もなお70'sジャーマン・ハードロック人気の根強さを物語るであろう、驚愕にして必聴のニューカマーがここに登場した。

ハモンド、エレピを駆使しメインヴォーカルも兼ねるJulia Fischer嬢を中心とする**ジュレス・バンド**の本作品は2018年のデビュー作に当たり、満を持しての日本上陸となった次第である。

Julia嬢のブルーズイーで70年代特有の時代感と空気を纏ったソウルフルな歌唱力とオルガンワークにギターとリズム隊が絡み、曲によってはバックコーラスが参加するといった作風で、時流の波やら昨今のトレンドとは凡そ無縁とおぼしきヴィンテージなサウンドルーツを遡れば...やはりそこはジャーマン・オルガンハードの伝説的存在でもあるフランピーという源流に辿り着くであろう。

同じフランピー影響下の同国の新鋭リキッド・オービットとほぼ互角の良い勝負をしているが、前者との決定的な違いはサイケデリックでトリップな要素が皆無で、あくまで往年のZEPにも相通ずるパワフルでストレートに“R & B”と“ロック”なカラーを全面に押し出しているところだろうか。

兎にも角にも全曲聴き処満載で、レコーディング風景のフォトグラフをそのままアートワークに起用したりといった心憎い懐かしさすらも呼び起こしてくれるのも実に嬉しい限りである。

ビール片手に小さなライブホールで、生のステージで接してみたいくなるような臨場感と醍醐味すら体感したくなる、そんなささやかな魅力すら秘めている新たなる曲者の逸材登場に心から拍手を贈らばかりである。